

令和7年度ウミガラス保護増殖検討会

議事概要

- ◆日時：令和7年12月22日（月）13：30～16：00
- ◆場所：札幌市環境プラザ 環境研修室1・2（オンライン併用）
- ◆出席者：配布資料参照
- ◆議事概要 ※○：委員 ◇：オブザーバー □：環境省

議題（1）. 令和7年度ウミガラス保護増殖事業の実施結果

1. モニタリング調査結果及び対策実施結果について →【資料1-2】参照

（繁殖結果について）

□令和7年度はウミガラスの飛来数・つがい数ともに過去最大値を記録した。

（捕食者対策について）

□天売島のハシブトガラスの個体数が減少し、飛来回数や捕食被害が減少した。

○モニタリング手法を変更するにあたり、カラス以外の捕食者のデータは現在とれているか。

□巣棚入口のセンサーカメラでドブネズミ、カラス及びカラス以外の鳥類の飛来状況を確認している。

（餌資源について）

○イカナゴの豊凶はウミガラスの繁殖に影響するか。

○近年、天売島の個体群はギンポ類を主食としており、ウミガラスの繁殖はイカナゴの資源量の変動に大きな影響は受けていないのではないか。

○長期的には影響が出る可能性もあるが、現時点ではギンポ類の給餌頻度とヒナの巣立ちの関係について注目していくことが重要である。

2. 令和7年度巣棚内残渣の遺伝子解析結果について →【資料1-3】参照

□遺伝子サンプルの採取年度と個体の成幼は正確に記録する。

○天売島以外の地域から個体の移入があるか調べるために遺伝子解析は有効か。

○広範囲に同じタイプのハプロタイプが広がっているため有効ではない。

○遺伝的多様性はそこまで高くないと考えられるため、環境変化への脆弱性は懸念点である。

議事（2）. 令和8年度ウミガラス保護増殖事業の実施計画

1. 繁殖状況の把握・整備 →【資料2-1】参照

□右側巣棚に設置していたインターバルカメラを左側巣棚に移設する。

□繁殖場所拡大のため中央巣棚のデコイを10個程度除去する。

○個体数の正確な確認方法として巣棚入口のビデオカメラを継続して利用すべき。

□今後個体数増加した場合は左右の巣棚の拡大も検討する。

○海側にデコイ等で壁を作るとウミガラスが繁殖しやすいのではないか。

2. モニタリング方法の検討について →【資料2-2】参照

□安全性や体制維持の観点から巣棚内カメラの撤去を検討中、令和10年に代替手法への移行を目指す。

○周辺地域では、鳥インフルエンザにより減少したカラスの個体数が近年再び増加傾向にある。代替手法では捕食者モニタリングが手薄になるが、今後も捕食状況に応じた手法検討が必要である。また、捕食者の飛来回数や行動と捕食数の相関についても検証が必要である。

□資料 2-2 の図 5 のエラーバーの計算方法について確認する。

3. ウミガラス保護増殖ロードマップ中間評価について →【資料 2-3】参照

- レッドリストの絶滅危惧レベルが上がる可能性のあるオオセグロカモメの捕獲について、ウミガラス保護増殖事業での位置づけや方針を整理したほうがよい。
- メタ個体群を維持する上で、最西端に位置する天売島個体群を保全していくことは生態学的に重要である。国外の個体群の状況も把握していくことで事業の意義が高まると思われる。
- 鳥インフルエンザの影響についても念頭に置き、国内外の情報を収集すべき。
- 域外保全について、野生個体群がある程度大きいうちに域外保全個体群や放鳥条件の整理など、北海道の動物園や水族園も含めて検討すべきではないか。

議事 (3). その他

1. 羽幌シーバードフレンドリー推進協議会の活動について →【資料 3-1】参照

- ◇羽幌シーバードフレンドリー認証について、令和 7 年度は新たに 2 事業者からの申請を受理した。
- ◇黒崎海岸で一般市民が参加できる海岸清掃活動を実施し、約 1,155kg を回収した。

2. ネコ・ネズミ対策について →【資料 3-2】参照

- ◇ネズミ類自動補殺器の冬期における高い捕獲効果を確認し、今年度から 10 台を導入した。

3. ドブネズミ対策について →【資料 3-3】参照

- ◇噛み跡トラップは在・不在の簡易的な確認手法として有効である。
- ◇防除対策 (goodnatureA24・ベイトステーション) を実施した場所とそうでない場所を比較すると、ドブネズミの個体数減少に対して効果があったと思われる。
- 噛み跡トラップについて、相対的な密度のインデックスとして使えるかを評価すべき。
- 季節変化と場所変化も含め、ドブネズミ生息密度の過去数年間の変化が示されると良い。